

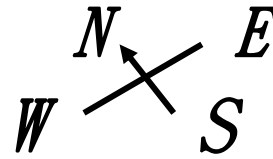
藤 沢

2021年2月1日

第321号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主
な
記
事

- ・低炭素社会推進会議シンポ報告
- ・核兵器禁止条約発効に寄せて
- ・農家カフェ SIESTA
- ・身近な生き物との出会いのすすめ

<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

安全なワクチン接種でコロナの収束を！！

いよいよワクチン投与が始まることで、パンデミック収束に向け期待が高まっている。一方、ワクチンの安全性は、日本での臨床試験なしでの接種に大丈夫か不安を感じている人も多い。国民の不安に応えるためにはワクチンの安全性について透明性のあるデータを公表することが不可欠である。

昨年3/19の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議提言は「爆発的患者の急増を回避し、できるだけゆっくりと感染を広げ、その間にワクチン開発を急ぐ」とある。当時、これを回避するには自覚症状のない感染者がPCR検査を受けられるしくみ作りが急務と指摘した(311号巻頭言参照)。

パンデミック収束についてWHOの基本戦略は「集団免疫の獲得」である。私たちに元々備わっている免疫力だけでは、新しいウイルスが現れると対応が出来ず、集団免疫形成に間に合わない。そこで、医療体制の崩壊を防ぎつつ集団免疫を形成するために「ワクチン提供」が待たれている。

今回、学校を一斉休校しなかったのは、前回の反省の上に立っていると理解出来る。

アメリカのコネル大学では昨年9月から学長判断で授業を再開、学生・教職員2800人に学部生は週2回、教職員は週1~2回の検査を続け陽性者はどんどん減ることを示した(1/23朝日夕刊)。世田谷区は区長判断で保健所の検査とは異なる「社会的検査」(介護事業所等と障害者施設等を対象にPCR検査)を5,000人に実施。この2つで共通しているのはトップがリーダーシップを発揮し、大学が関わり「プール方式」を採用し、大規模PCR検査を実施している。つまり、発熱し感染が疑われる人だけにPCR検査をするのではなく、無症状者も含め、「PCR検査」を拡充することで市中に拡大する無症状者を抑えれば、学校の授業再開も自由な経済活動も出来るようになる。

ワクチン接種が終わるまでには相当時間がかかる。無症状の感染者をそのままにしていると再び感染拡大が起きる可能性がある。従って、感染拡大防止とワクチン接種は並行して行う必要がある。

国は感染拡大を防ぐため「罰則」に頼るのではなく休業補償を十分に行う体制を作り、各自治体は「PCR検査」を拡充し、医療従事者と高齢者を守り医療崩壊を防ぎつつワクチン接種に繋げることが喫緊の課題である。

藤沢市においては、ワクチン接種担当を保健所に新設、職員19名で準備が進められている。65歳以上の高齢者だけでも10.7万人で、かつてない取組が必要である。

(生物資源科学博士 宮地俊作)



1/22 核兵器禁止条約発効に合わせたの
藤沢駅南口でアピール行動

第7回 低炭素社会推進会議シンポジウム コロナ禍での脱炭素型デザイン ―建築、都市、 農村地域での居住空間のあり方を問う―

このシンポは 2021 年 1 月 22 日オンライン開催された。そのうち第 2 部『コロナ禍での脱炭素型建築・都市・地域社会の新たなデザインを問う』から市民の皆さんに興味ありそうな部分を紹介する。

最初に国土交通省都市局の坂本光英氏から『コロナ禍での建築・まちづくり』報告があった。いわゆるコンパクトなまちづくりは賑わい、生産性向上、生活維持、環境負荷低減、都市維持費用削減等において、それが追求される政策が行われて来たが、新型コロナウイルス危機を契機としたまちづくりも検討されており、最新の政策が紹介された。

次に環境省の中島恵理氏から『脱炭素イノベーションとパンデミック』と題して、カーボンニュートラル実現に向けた政府の取り組み、とくに国・地方脱炭素実現会議の新設(2020.12.25)と地域脱炭素ロードマップの作成やゼロカーボンシティ政策について最新の話が披露された。

それに先立ち、主旨説明において糸長浩司氏(当会議幹事)から、日本建築学会が気候非常事態宣言(2021.1.20 公表)を出した報告もあった。糸長氏は地域と感染症と気候変動に関連して生態系との関係等も取り上げ再ローカライゼーション、脱成長の地域社会再生等、幅広い視点からの検討を示唆した。

続いて 中村勉 氏(建築家、当会議議長)から『コロナに強い脱炭素型居住空間デザイン』、倉淵隆 氏(空気調和・衛生工学副会長)から『コロナ禍での 空調・換気デザイン』について、佐土原聡 氏(横浜国立大学)から『都市エリアの人流マネジメント・エネルギーデザイン』について発表があった。

続いて外岡豊(当会議幹事)から『コロナ禍を契機とした新たなサステナブルな空間と社会をデザインする』と題して、リモートワーク等による巨大都市から地方や郊外への職場移転、転居を契機に新築を避け、空家を省エネ改修してうまく利用する、超高層から小規模、できれば木造、の建物に移行することで建築に伴うCO₂排出量削減できること等、新政策の可能性について提示した。

その後、幅広く諸問題について全体討論を行い閉幕

〈脱炭素都市ふじさわをめざして〉

した。20 日に米国バイデン新大統領がパリ協定復帰に署名したが、その直後に排出ゼロを目指した討論が行えたことは極めて有意義であった。

(外岡 豊)

農家カフェ SIESTA

農家カフェ SIESTA に行ってきました。

小田原で、エネルギーも食材も地産地消を実現された小山田大和さんが、このコロナ禍のさなかの 1 月 9 日に開店されたお店です。



今回は、土日だけ出現するキッシュのランチプレートをいただきました。小さいけどキッシュが見かけよりボリュームあって満足！ キッシュって、作れないので憧れちゃいますねー。

生搾りみかんジュースがたっぷり一杯ついて来てうれしい。耕作放棄地で育てた無農薬みかんのジュースです。

地域のソーラーシェアリングで発電した分を配電受ける形で、電力の地産地消も実現。

その他いくつかのプロジェクトと仕事を抱えて走る小山田さんご自身のエネルギーはどこから生まれてるんだろう。

藤沢市内にも地産地消食堂ありますが、ちょっと足を伸ばしてみませんか？

イベントもあります 〜〜

3・11 十周年フォーラム

- 3 月 13 日(土) 9:45-11:45

映画上映「日本と再生」お話 小山田大和さん
小田原ウメコ 会議室 2, 3 参加費 無料

- 3 月 14 日(日) 10:00-12:00

小田原御堀端コンベンションホール A
講演 飯田哲也さん(環境エネルギー政策研究所長)
パネルディスカッション 小山田大和さん他 5 名
参加費 ¥500 申込み 090-6709-9771

(杉山百合子)

核兵器禁止条約発効に寄せて

76 年前、日本にも戦争があった。
310 万人の日本人、2000 万人のアジアの人々が戦死した。

1945 年 8 月、2 発の原子爆弾が落とされ、広島 14 万人、長崎 7 万人が死亡、生き残った被爆者も塗炭の苦しみだった。
そして戦争は終わり、静かな空が戻った。

1946 年、戦争は 2 度としない、戦力は持たないと、平和憲法をつくり、今に続いている。

1954 年、ビキニ環礁の核実験で第 5 福竜丸が被ばく、瞬く間に、広島長崎を繰り返すな！核兵器は禁止を！との声が湧きあがった。
翌年、第 1 回原水爆禁止世界大会が開催され、今に続く。

核廃絶を求める署名は、毎年国連に届けられ、世界を動かしていった。

2017 年 122 カ国の賛成で核兵器禁止条約が採択され、50 カ国の批准で 2021 年 1 月 22 日、ついに条約は発効した！

被爆者の長年の願いは結実した！

しかし、日本政府はアメリカの核の傘のもと、条約に署名も批准もしていない。

だが今や、核が平和を守っているという‘核抑止力’は破綻している。

196 か国加盟の国連で、民主主義と平和の枠組みが全世界の人々に受け入れられ、世論となって世界を動かしつつある。

唯一の戦争被爆国日本が、核兵器禁止条約を批准し、世界平和構築の先頭に立つことを願い、日本政府に批准を求めたい。署名にご協力を！

（青柳節子）

身近な生き物との出会いのすすめ

マンション住まいでは望むべくもないが、一歩外にでるとお隣の庭のロウバイの甘い香りが漂う。そんな季節は特に散歩が楽しい。藤沢は自然が身近な都会なのだろう、住宅地でも道路端でも思わぬ出会いがある。加えて引地川や境川、段丘崖に残った森は絶好の生き物との出会いの場である。

そんな散歩をもっと楽しくする道具だが、お勧めはカメラ。動き回る蝶は写真で楽しむ（写真 1）。



写真 1 アレチハナガサの蜜を吸うキアゲハ

私には携帯に便利な軽い機種がベスト。

きれいな花はまず撮る（写真 2）カメラはメモ帳がわり。

そして散歩後に調べるが図鑑がない時はパソコンを使いインターネット検索が常である。

カモやサギなどの体が大きい鳥を探すには苦労はないが、その姿を楽しむなら双眼鏡の出番である（写真 3）ウグイス、メジロ、シジューカラはよく鳴く身近な鳥だが拡大してみると格段にきれいだ。普段近くに寄ってはくれない小鳥を見るには必須のアイテムだ。

1 つ報告がある。

藤沢エコネットニュース第 309 号（昨年 2 月号）に掲載した引地川の白いスズメ個体だが、5 月には川沿いの建物をねぐらにしていたが、6 月初旬を最後に見えなくなった。今はどこかの群れの中にいるのだろ

うか。（菅谷芳雄）



写真 2 近所の道端で出会ったピンクの丸い花、オジギソウ。



写真 3 春になれば、鼻先が真っ赤になるバンはちょっと用心深い

コロナの現状 ⑥



新年を迎えた1月に入ってからコロナ禍が速度を増し感染者が急増し、恐れていたことが現実になった。

市のHPによると新コロナ陽性者は12月は300人であったが1月は996人で約3倍。1月7日に再び緊急事態宣言が発出され、外出自粛 テレワーク・時差出勤を、会食などの制限に加え、公民館や市民の家の活動停止にとの状態が続いて、未だに感染者が減らない。

中でも介護施設等にクラスターが発生したことは痛ましい限りである。あるヘルパーの仕事をしている方は、仕事以外の趣味や外出を制限し、介護に影響が出ないように細心の注意を怠らない生活であると。

自宅療養中の感染者が突然死した県内報告も、早く入院していれば…の後悔が残る。

現在藤沢の感染者は延べ1810人でその内退院は1221人 死亡者12人 入院34人(重症者1人 中等症者8人 軽症者25人 宿泊施設療養5人 自宅療養者150人(1/29現在)) 因みに1月中の高齢者70歳以上は115人 10歳以下は52人である。

県内では1555床(1/26に1939床から訂正)の病床があり1204人が入院中、ひっ迫している状態である。

藤沢の消防署の救急搬送困難事例では、搬送開始まで30分以上かかり、加えて受け入れ照会4回以上のこともあり、1月は8件の発生、その内コロナ患者2、発熱など4、その他2との状況が分かった。

県や市での支援制度も数々あり「持続化給付金」「雇用調整助成金」「家賃支援給付金」「低所得ひとり親世帯への臨時特別給付金」など、税金や公共料金の猶予、融資貸付制度もあるが、一人ひとりの状況に合わせた支援策を相談して対応してもらうことが必要だ。(荒井)



放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位(μSv/h) 地上50cm

1/5 晴 大庭鷹匠橋	0.031
1/10 晴 辻堂神台公園	0.042

ECONET INFORMATION

コロナ禍ですが リモートによる会議に参加できます

▲やってみよう、パワーシフト！これからのエネルギーを考える 「Zoom」を使用して開催

2月10日(水曜日)16時～17時オンライン会議

主催：特定非営利活動法人気候ネットワーク

<https://www.kiconet.org/event/2021-02-10>

▲環境にやさしい再エネ電力に、お得に切り替えましょう！ たいへん好評です 参加登録受付中です！

参加登録期間：令和3年2月15日(月曜日)まで

<https://group->

buy.metro.tokyo.lg.jp/energy/shutoken/home

▲第8回ふじさわ平和文化展

5/4-5/9 藤沢市民ギャラリーにて

出店者募集 3月5日(金)まで

絵画 書 陶芸 写真 絵手紙など

申込み/問合せ 0466-44-5067

Email tatsuro03@gmail.com

▲「原発事故10年 ふくしま交流プロジェクト」

3月28日(日) Zoomによる交流会

文集づくり 健康調査の支援等

主催 福島の子もたちとともに・湘南の会

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

ゆうちょ銀行 (9900) 店番 (029)

当座預金 0046501 77 7410ネット

◆事務局会議2月6日(土)10:00～

Zoomにより行います

《編集後記》気候危機は待ったなし、1月就任した米バイデン首相はパリ協定に復帰する署名をし、菅首相も昨10月、カーボンニュートラル宣言をした。だが原発を推進する方向で論議されている事は問題。世論の多くは原発廃止を望んでいる。今夏改定のエネルギー基本計画の見直しに「意見箱」が資源エネルギー庁HPに設置された。

多くの人が意見提出を！

新型コロナ禍も待ったなし、安全なワクチンが確実に届き、静まることを願う。(A)